

コウノトリ



毎週月曜日更新

# カタカタ通信

## 「子育て奮闘記 パート I」

第228号

2026年5月11日

今回は約1カ月の子育てのお話です。3月末の托卵から1週間経った頃に1羽、その翌日に2羽、合計3羽のヒナが孵化しました。うち1羽は孵化翌日に死んでしまいましたが、残る2羽は順調に成長しています。



5日齢頃 補助給餌のドジョウを食べるヒナ

昨年の経験をもとに、今年は序盤からヒナの成長を促していこうと、孵化後の早い段階で飼育係による補助給餌（巢台のヒナに直接餌を与えること）を始めました。ヒナはまだまだ小さいながらも、自分で餌を食べてくれました。

しかし、肝心の親鳥からは、初めの3日間、ヒナへの餌の吐き戻しがありませんでした。4日目からやっと吐き戻しを始め、1日4～5回の給餌がありました。親からの給餌回数が増加にあわせ、補助給餌は徐々に減らしていきました。8日齢を迎えた4/11からは補助給餌は行わず、親に任せられるようになりました。ヒナも生後1週間で2～3倍の大きさに成長しました。巢の一番近くの観察カメラからは、餌を欲しがるとヒナの鳴き声がよく聞こえます。次第に、鳴き声とクラタリングをまぜながら餌をねだるようになりました。



21日齢 クラタリングをするヒナ

親からの給餌回数は20日齢頃がピークで、1日20回ほども吐き戻しを頑張りました。親の給餌では、吐きたそうにしているにもかかわらず、出たのは少しだけだったりということもあり、観察カメラを見ていて見落としてしまうこともありました。少し吐いては、ねだられてまた吐いて…を繰り返したり、大量に吐いて親も一緒に食べたり…、いろんなシーンを見ることができました。

親たちの営巣は、今でも続いています。ヒナたちのベッドとなる内巢の部分は、常に直したり巣材を足したりと手入れをしています。そして外側、外巢部分の枝は、どんどん高く積み上げられています。飼育係に見えないようにしているのか？ヒナが落ちないようにしているのか？真相はわかりません。



32日齢 すっと立ち上がるように

最近のヒナは、立ち上がって、少し歩くようになってきました。巣立ちまではちょうど半分経ったところです。体重は親鳥の半分以上にまで増え、背中の黒い羽根（風切り羽）が日に日に伸びてきています。1日1cm以上は伸びている様子です。孵化して数日間、親にしっかりと抱雛（ほうすう・親が抱いて

見守ること)してもらっていたヒナたちですが、1週間ほどでどんどんその時間は短くなりました。2週間ほどでほぼなくなり、雨の日の肌寒い時だけになったので、抱雛中に親の羽の間からひよっこり顔を出すかわいい瞬間は、アツという間に終わりました。親も巣でたまに座ってはいますが、ヒナと並んでいます。たまに、尾羽を布団代わりにかけているようなこともあります。



28日齢 雨もあまり気にしてなさそうな親子

餌の内容も少しずつ変わり、ドジョウ中心から徐々にアジを増やしていくところです。これからも成長に応じた変化を観察していきます。

子育て奮闘記パートⅡに続きます。

天空の里 鴻巣市コウノトリ野生復帰センター

飼育担当：最長老